

週日の説教

金 大烈 神父 2010年6月9日(水)

《律法の土台は神様の愛》

おはようございます。

今日の福音に入る前に、第一朗読で読まれた列王記(上 18・20-39)の中で、エリヤ預言者が話されたその内容を黙想してみましょう。最初の所で『あなたたちは、いつまでどっちつかずに迷っているのか。もし主が神であるなら、主に従え。もしバアルが神であるなら、バアルに従え。』とありますが、この話で、バアルが意味するものは何でしょうか。簡単にいいますと、人間が人間の考え方で作ったもの、もっと易しくに言いますと人間の欲望によって作られた愚像です。ですから、あなたが「神様、神様、ヤーウエ、ヤーウエ」と言いながらも、具体的な生き方が自分の欲望のままであるならば、絶対に真の神様に会えないという事です。この言葉は、何千年前イスラエル人に預言者エリヤを通して話された神様の御心だと思うのですが、今の時代に住んでいる私達にも、必要な言葉、振り返ってみななければならない言葉だと思います。

私達も「主よ、主よ」と言いながら信仰の生活をしています。そして「私の信仰は正しい」と思いながら信仰の生活をしています。それは認めますよね。私達の一日、24時間のことをよく考えてみて下さい。私達の歩まなければならない道、歩んでいる道、その道に主の御旨がどのくらい中心になっているか考えてみますと、やっぱり私達も自分の欲望によって、自分の考え方によって、イエス様が整えて下さったその道を歩まずに、自分勝手の道を歩んでいるのではないかと、反省ができるのではないかと思います。

結局この世の中、死ぬ時までいつも誘惑があります。バアルという誘惑があります。その誘惑に私達が何%くらい足を置いているのか、主の道に何%くらい足を置いているのか、いつも気にしなければならないことを、今日エリヤ預言者を通してもう一回考えてみるべきじゃないかと思ってみました。

偶像は、この世の中で全てが人間の欲望です。神様が作った物ではなく、人間によって作られた物です。面白いでしょう。誘惑の特徴は先ず、おいしい、面白い、そして体が傾いてしまう、心も傾いてしまうそういうものだと思います。そうでなければ 誘惑とは言いません。ですから私達はすぐそこに傾いてしまう傾向があることです。

さあ、自分自身のことでも考えて見ましょう。先日、皆様に差し上げた宿題の内容も、ある意味でその答えがこの観点から見なければならないと思います。少なくともご自分で時間をとって、深刻に考えて頂きたいのです。そのように心を配ることが出来れば、多分「ああ、これはうちの司祭に送らなければならない」という考えも生じると思います。お願いしますよ。(笑い)

さあ、今日の福音(マタイ5・17-19)に入ってみましょう。福音でイエス様は「私は律法を廃止する為ではなく完成する為に来た。一点一画も自分勝手にどうすることも出来ない。」そして「一番小さ

いものでも守らなくていいと教える者は、神様の国の中では一番小さい者にされる」とおっしゃっていますね。完成の意味は何でしょうか。大体私達が錯覚するのは、完成とは、初めから最後まで正しく行う何かのプロセスを、最も完璧にする事だと思っています。しかし、完成が持っている本当の意味は、間違っているものは無くす、正しいものは生かす。そして、一番相応しい所まで連れて行くことを言います。

イエス様は、2000年前のその当時、実際に律法に逆らう色々な行為を見せて下さいました。特に安息日の規定等、さまざまなことを行ったのです。しかしイエス様は今日、逆に「律法の一つも、そして預言者のことも絶対に無視してはいけません。私は律法、預言者の教えを全部完成するために来たのだ。」とおっしゃっています。これはどういうことでしょうか。この意味は実際に旧約の聖書を読んでも分かりますが、例えば、律法の殆どは「何々をしないように」、「何々をやれ」この二つしかありません。しかし、その結果については、どこにも何も書かれてありません。預言者も「何かが起こる」、「この様になる」と、いつも未来について語りました。しかし、イエス様が直接来られて、私達が完全に理解できなかったその考え方をやり直されたわけです。やり直すということは、間違えていることは間違えているとおっしゃって、これが正しい道であるとはっきりさせることです。実際に、預言者が予言したあらゆる全てのことは、結局イエス様を通して成し遂げられました。このように、全体的な文脈を考えなければならないのが、今日の福音です。

歴史を見ますと、どの国でも、独裁的傾向のある者が政治に関わる時、いつも口にするのが法律です。法律を利用して、その法律で人々を攻めて来ました。そして、もっと中に入ってみますとその法律は全部、自分の考えによって作られたものが殆どです。しかし、力のない者を守る為に作られたものが、本来の律法の精神です。どの国の律法でも、力のない弱い立場の人々を守る為に作られたものが法律でした。例えば、無法地帯だったら力のある者が力のない者を攻めることになります。

結局、律法の精神も同じでした。先ず神様のことを考えて、「神様を愛さなければならない。」そして、「隣人を愛さなければならない。」この二つの精神によって作られたものが律法なのです。けれども、人間の愚かさによってその色は枯れてしまい、長い歴史のなかで、「これは神様の教え」と言いながらも実際は自分達の欲望を、その法律の中に沢山入れたのです。それらのことを無くす為にイエス様は来られたわけです。「あなた達はいつも、唇では神様、神様と言うけれども、私の御父はそういう方ではありません、」と答えたのがイエス様でした。ですから結論として、イエス様は殺されてしまいます。イエス様の道は、皆に見える道でした。しょうがなく殺される道でした。しかし、その様な心を私達に見せる為にこの世に来たわけです。そういう意味で私達は救われたのです。

皆様、要理の勉強に、「イエス様が十字架に付けられて亡くなり、そして、三日目に復活なさった、そういうことで私達は救われた。」このような教えがあったと思いますがどういう意味でしょうか。2000年前のイエス様の死が、どうして今の私達の救いになるのでしょうか。簡単なことです。それは“生き方を教えてもらった”からです。ですから、救われたと言うことは完成ではありません。今を

生きている私達は、その道をちゃんと歩むことが出来れば救われるだろうと言う確信です。それが信仰です。「洗礼を受けたから、イエス様を信じているから救われるよ」と言う甘い考えはいけません。これが、私達が最後まで戦わなければならないことだと思います。

皆様、教会にも色々な法律があります。その法律の基盤が、その土台が、神様の愛でなかったら、そして、隣人を見る暖かな心でなければ何の意味もありません。ただ縛られるだけです。

皆様、私達は色々な事を考えます。「日曜日のミサをちゃんと守らなければならない。告解にも数ヶ月に一回は行かなければならない。」それらはいいいことです。しかし、その心が純粹であってほしいのです。そうじゃなくて義務的になってしまうと、イエス様に叱られたイスラエル人が見せた姿と同じになってしまいます。イエス様が見せてくれた特徴は唯一つです。彼はいつも“中味を生きよう”としました。皮ではなく“中味を大事”にしました。私達も本当に幸せになる為に、「何が中味であるか、何が人間の欲望が作った皮なのか」それをわきまえる知恵を求めなければならないと思います。

ありがとうございました。